

## 第604回建設技術講習会 現場研修事業の概要

### 1 金沢駅西広場再整備事業

..... 金沢市広岡

金沢駅西広場は、平成3年に金沢駅西土地区画整理事業により「交通処理機能」を有する駅前広場として開設されました。その後、駅西地区の市街化の進展など駅西広場を取り巻く状況が大きく変化したことに加えて、平成27年春に北陸新幹線金沢開業が決まったことから、広場機能の充実と利用者の快適性や利便性の向上を図ることを目的に、新しい金沢（駅西新都心）の玄関口にふさわしい機能と都市景観を備えた広場の再整備を実施し、平成26年3月に完成しました。整備の基本方針は以下の3つです。



#### ① 駅西地域の玄関口としてふさわしい広場の顔づくり

- ・ 駅西新都心の創造拠点「新しい金沢」の都市景観の形成
- ・ 駅とまちの賑わいをつなぐ地上動線の確保
- ・ 人々の集い・憩い・賑わいを創出する環境空間の確保

#### ② 適正な施設規模の確保、安全で快適な交通機能の充実

- ・ 駅西地域の発展に対応した施設規模の確保と交通結節点としての機能の充実
- ・ 各交通施設の特性に応じたゾーニングと動線の配置
- ・ 公共交通の乗り換え促進を図り、使いやすく快適な交通環境の整備

#### ③ 人や環境にやさしい広場の整備

- ・ 歩行者を優先とした広場環境の整備
- ・ 自然のやすらぎや潤いを感じる緑豊かな環境の整備
- ・ 都市と自然が共生する環境負荷低減に配慮した施設の整備

### 2 金沢城公園整備事業

..... 金沢市丸の内

金沢城の貴重な歴史的文化遺産を後世に継承し、兼六園と並ぶ県都金沢のシンボル公園として、また、石川県の歴史・文化・伝統を継承する「象徴」として、本県が誇る豊かな文化土壌に一層の厚みを加えるとともに、交流人口の拡大と都心地区の魅力向上を図る都市公園として整備を進めている。

金沢大学跡地を取得後、公園としての基盤整備が平成16年度で終了。北陸新幹線の開業を見据え、平成18年に取りまとめた整備計画に基づき、史実性や整備効果の高いものから、順次整備に取りかかり、平成22年4月に「河北門」と「いもり堀」が完成した。現在、27年春の開業に向け、「橋爪門」の復元と旧体育館跡地の「玉泉院丸庭園」の暫定開園に取り組んでいる。

〔整備計画の概要〕

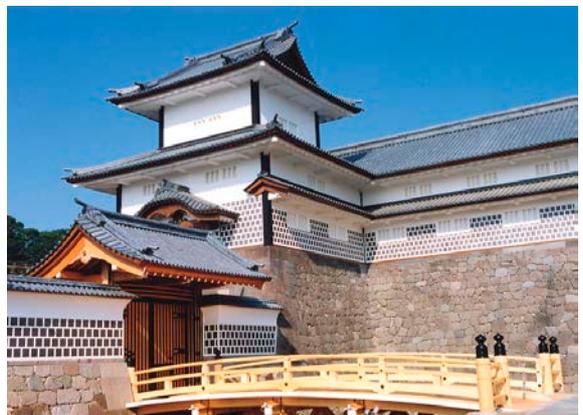
建造物：金沢城三御門の整備

（「河北門」「橋爪門（二の門）」の復元、  
「石川門」の保存修理）

堀：「いもり堀」の段階復元

石垣：修築等の保存対策、「石垣回廊」の整備

庭園：旧体育館跡地の「玉泉院丸跡」の暫定整備



3 金沢市の無電柱化事業（主計町地区、東山地区）<sup>かづえまち</sup> …………… 金沢市主計町、金沢市東山

金沢市は、水の流れと緑豊かな自然環境に恵まれ、加賀百万石の城下町として、金沢城、名勝兼六園を中心に繁栄してきた文化都市です。市街地は、寺町台地、小立野台地、卯辰山の三つの台地の間を犀川、浅野川の二つの河川が流れており、起伏に富んだ地形となっており、また、非戦災都市であることから中心部には武家屋敷群、茶屋街などの歴史遺産が数多く残っており、城下町の面影を色濃く保っており、平成24年度までに4箇所が「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されております。こうした自然環境、歴史遺産やまちなみを後世に継承するため、金沢市では半世紀前から景観の保全を目的に景観政策に力を注いでおり、そのひとつとして無電柱化に取り組んできました。



主計町地区

主計町地区は、浅野川に架かる浅野川大橋詰に位置し、明治期より茶屋街としてまちなみが整えられてきました。浅野川沿いは石張舗装等の修景整備とともに無電柱化が行われ、現在は、川沿いから1本裏通りに入った路地で、茶屋建築の街並みや「くらがり坂」、「あかり坂」といった観光名所につながる狭隘な道路で、金沢市初の軒下配線方式による無電柱化を実施しました。従来の無電柱化は、架空線の全てを地下の管路に配線しますが、主計町地区においては、全ての管路を埋設するスペースが地中に無く、従来の方法では無電柱化を行うことが困難であったため、従来の地中化方式と軒下配線方式との併用による無電柱化の方法を採用しています。



東山ひがし地区

東山地区は、浅野川の北に位置し、伝統的な茶屋建築が残っております。この地区には、東山ひがし地区と卯辰山麓地区の2箇所が「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されており、修景整備については、茶屋町として当時の町建ちそのままの地割に現在も茶屋町様式町家が集積する地区の特性に応じ、建物と調和のとれた整備に努めております。東山ひがし地区の中央に位置する通りについては、平成元年に修景整備とともに無電柱化が行われ、現在は、卯辰山麓地区である東山の入り口部を国道の整備とあわせて地中化方式による無電柱化と修景整備を行い、平成26年度完成に向けて整備を進めています。これらにより、歴史的文化を感じる観光名所として訪れる観光客も年々増加しています。

4 金沢東部環状道路建設工事「御所トンネル」 …………… 金沢市神谷内町～東長江町

金沢市は、都心部を中心とした放射状の道路網が都市の骨格を担っており、都心部を目的地としない通過交通が中心部に流入してしまう都市構造であるため、慢性的な交通渋滞が発生していました。金沢東部環状道路の整備により、これらの通過交通の排除とまちなかへの交通の分散導入が図られ、都心部の渋滞緩和および郊外間の連携をスムーズにする効果が期待されて



います。金沢東部環状道路は他の道路の交差点とを道路横断ボックスや橋梁を設置することにより完全立体交差とし、主要な道路との連絡のみICで乗り降りできるアクセスコントロールされた道路となっています。石川県の長期構想である「県土ダブルラダー構想 結いの道」に位置付けられており、県内の広域的なネットワークの充実にも寄与することと期待しています。現在、神谷内町～東長江町の1.8km区間について4車線化開通（平成29年度の供用）に向け、整備を進めています。